

Igroup communication

Special 16
2025年7月30日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



定期総会

研修委員会

BCP・
マンパワー推進企画会議

行事イベント

広報企画

本社移転のお知らせ

inn移転のお知らせ

BOOK CAFE PERCH

NPO法人 アイグループ

〒816-0801 福岡県春日市春日原東町2-1-4-101
TEL:092-710-0268 www.npo-aig.jp

見やすいユニバーサル
デザインフォント
を採用しています。



■ 定期総会・講演会・食事会

定期総会後、2名の講師の先生に講演をしていただきました。 講演会終了後には、食事会も開催しています。

今年も定期総会後、一般社団法人Masterpiece代表理事の菊池まりか先生とNPO法人ぱっぷす代表理事の金尻カズナ先生をお招きし、大変勉強になるお話をいただきました。

1人目の菊池まりか先生は、社会的養護などを巣立った若者たちに必要な活動をする団体で、居場所の提供・食事の提供・ステップハウス・シェアハウスや学生マンションなどを運営されています。

「すべての若者が安心して自分の声を聴ける社会」をビジョンに掲げ活動しており、様々な環境から逃げていく若者たちに「自分の声を発しているんだ」「声を発して良かった」と思え、自分の権利を知り、自己決定が出来るようなサポートを目指されています。そして、その声を社会や国に届けていく活動が行われています。

繋がり、情報の大切さが重要な事や他機関との連携・アンテナを張り、情報を集める事が児童の支援に繋がり、支援の幅も広がることを改めて考える事が出来ました。

また、相談内容などの事例も話していただき、今いる入居者は勿論のこと、ホームを卒業した退居者のつながりを大切に、これからも安心して生活が出来るように関わっていきたくと学び直しができました。



2人目の金尻カズナ先生は、他者の利益の為に自分の性的同意が侵害され、コントロールを奪われた状態の性的搾取について、お話をいただきました。

支援が必要であるのにも関わらず、サポートが届いていない人に対して声掛けなどを行い、福祉が積極的に働きかけて、情報・支援を届ける(アウトリーチ)活動や本人に代わって拡散した性的画像記録の削除要請を行う(削除要請)活動や広報・啓発・政策提言(アドボカシー)などの活動を中心にされています。

SNSから被害にあったり、キャッチなどから声を掛けられて被害にあうことも多く、子ども達には居場所がないと感じ、売春に繋がったり、心身を傷つける事で精神的安定を保とうとする子がいる。ぱっぷすでは被害児童排除ではなく、加害者が増えない施策が必要であること、発想の転換で、福祉にとって問題が宝の山であることなど、声かけ方法や事例の話も聞くことができました。断れない時や騙される時の心境や心の仕組みなど、多くの事を学ぶ機会となりました。今回の話を聞いて、ホームの入居者にも犯罪に巻き込まれないよう、SNSの怖さや売春の恐ろしさなど、伝えていかなければいけないと実感しました。



今回は入居者、退居者もこの講演会に参加しました。日頃聴く事のできない話など聴けて、学びの多い一日になったのではないのでしょうか。

講演会終了後には食事会を開催いたしました。入居者や退居者にも声を掛け、80名近くの参加がありました。中には出産し、こどもと一緒に参加してくれた退居者もありました。

今回の食事会は、innの職員に司会進行を務めていただきました。美味しい食事・歓談とは別に2名の退居者が歌を披露してくれました。テンポラリの退居者であり、現在別のホームで学生をしながらパートで働いている子があいみよんの「マリーゴールド」、ラブの退居者が「丸の内サディスティック」と「Shapu Of You」を歌ってくれました。退居して頑張っている事や職員へのメッセージも話してくれ、大変盛り上がりしました。



そして、各ホームで働く職員の現在頑張っている事などを発表しました。それぞれの職員の考えていることや頑張っている事を聞いて同じ法人で働く仲間、一緒に頑張っていきたいと思える時間となり、他ホームの方とも交流ができ、充実した時間を過ごす事ができました。

また、えんの退居者が壇上で話をしてくれました。当日に依頼したにも関わらず、「理事長にお世話になっているから協力したい」と引き受けてくれました。

緊張しながら一生懸命話をする姿に感動しました。急遽だった為、話したい事を全て話すことができず、伝えられなかったと悔しがっていたそうです。でも職員には充分伝わりましたし、これからの支援も頑張ろうという気持ちになりました。

今回は入居者、退居者の参加が去年より多く、来年も参加したいと終了後に話してくれた子もありました。いつでも会える場所・話せる人がいるという安心感を持って退居していけるよう、これからも支援を続けていきたいです。



■ 社内研修会

4月社内研修会

今回の社内研修は、《子ども家庭支援センター あまぎやまセンター長》をはじめ数々の子ども達に関わる機関に勤めており会長や副理事などを歴任されている坂口明夫先生と社会福祉法人光明童園(ひかりどうえん)の理事長及び社会的養育総合支援センター長を務めている堀浄信先生を講師にお招きし、子どもたちの社会的養育とチーム養育に向けての研修を行いました。

まず坂口先生の研修は『こどもたちのためから こどもたちとともに』をテーマに①自立とは、居場所とは②愛着(アタッチメント)障害の理解③社会的養育についてお話を頂きました。

子どもを大事にする=その側にいる大人も大事にする事、身をすり減らした支援はすべきではない事が前提にあり、インケア(安心して失敗できる環境)とリービングケア(環境の変化に備えること)の大切さ、子どもたちのつらい場所にとどまる期間を減らし、つらいと思う事を限りなく短くする事が関わった子どもたちが施設につながりたいと思いつき出れる事、個性を発揮できる場所づくりにつながると学びました。愛着障害については精神的な通院はいくつか知っておき利用し、それぞれに合った受診を行う事。子どもは個人の安定と不安定をよく見ており瞬時に見分けており試し行動も行う為波長に乗らず冷静に対応する事が必要。ただ、一度関係性が崩れたものは戻すまでに何倍もの時間を要すると仰っていました。

その他、退居児童の大学卒業旅行へ行ったお話も頂き、職員と児童と1対1の人間として付き合う事が大事である事もお話されていました。

次に堀先生の研修は『チーム養育に向けて』をテーマにお話を頂きました。

“チーム”とは“ある目的のために協力して行動するグループ”であり、困った時、迷った時、悩んだ時、“目的・理念・上位概念”に立ち返るものである事。ただ、仲良しの集まりではなく空気を読みすぎて子どもを犠牲にしていないか?違いを認め合える組織である事、この仕事に《正解》はない事を学び、その中で『正しさ』は大切だが『しあわせ』の方がもっと大切で尊い事を教えて頂きました。

支援は子どもたちのニーズに合わせ、その時のベターな方法を指示しそれを子ども自ら選択する。「しつけ」は「おしつけ」である事も学びました。

グループワークもあり、隣の職員さんの印象を書きお互い伝え合う事を行ったり普段ホームでも子どもたちと実践ができそうなものでした。

研修後は坂口先生、堀先生にも参加して頂き懇親会を行いました。

坂口先生からゲームを提案して頂き、有意義な時間を過ごす事ができました。



■ 以下は研修参加後の感想をまとめたものです(抜粋)

本日の研修で学んだことで実践できそうなことや感想を教えてください。

- グループワーク内では、各ホームの取り組みを知ることができ、多様で多角的な視点を持つことができました。経験年数によって見えるものが異なり、今後のビジョンが見え、仕事への熱量を上げることができました。実践できそうな事柄では、アタッチメントの特性を踏まえた上での子ども理解です。これができる支援者としても子どもの行動一つ一つに意味を感じると共に子どもとのすれ違いが起こった際の双方の傷つき方や衝突の度合いが変わり、児童の発達や自立へより、貢献できるのではないかと考えます。
- 自身と異なる価値観について再認で来た。児童対応においてもそういった児童の価値観、個性を尊重したい。
- 愛着障害のお話では、思い当たる児童が数人がいて、今までの成育歴から、不安やイライラを表出している事をあらためて認識できました。幼い時の思い出が大事と言うお話だったので幸せと思えたり、失敗を乗り越えたり、メリハリのある生活で、充実した毎日を送れるように、いろんな経験の場を作っていきたいと思います。児童との関係や職員のチームワークにもコミュニケーションを取り価値観の違いを受け入れる。
- 坂口先生の講話を聞くといつも初心へ戻れます。チームワークを大切にしていきたいと思いました。



■ BCP活動

各ホームにBCP担当者を配置し4月に担当者研修を行いました。BCPの必要性、今年度の年間計画内容の確認、研修・訓練の取り組み方等確認を行っています。担当者が主体となり各ホーム6月に机上型研修・訓練を行い、終了後は各ホームでの訓練内容を報告し他ホームでの取り組み方等参考にしながら再度BCP研修を行っています。

机上型研修・訓練の取り組みとして、各ホームごと全職員でBCPの意味・必要性を確認後一人一人に用紙を配りその時に思ったことや行動を記入し、動画終了後は一項目ずつ一人一人発表を行いそれぞれの考え方や行動の仕方を確認することができました。また、児童とも避難場所・避難経路・災害時の連絡の仕方連絡内容・災害時の伝言ダイヤルの使い方・公衆電話の設置場所の確認・応急処置の仕方など行っています。

今回の訓練の課題として、備蓄品の追加購入、持ち出しリスト作成、消防署などの防災体験(初期消火・煙避難・暴風・地震等)を取り入れていく予定です。

災害が実際に起きた際に、焦らず、落ち着いて行動できるよう継続して研修を行っていきたいと思っています。

BCP年間計画

令和7年4月	担当者研修
6月	研修および訓練(非常災害) 各ホームにて机上型研修・訓練
9月	研究および訓練(感染症)
12月	災害備蓄品の在庫、使用可能有無を含めたチェック
令和8年3月	業務継続計画(BCP)の内容の再確認および見直し 他、定期的に消防用設備点検や避難訓練を行っています。

■ マンパワー推進企画

マンパワー推進企画では、4月から『Man(男性)Power』男性職員間での共有・意見交換の場を通じて更なる活躍の機会を創出」目的とし週1回リモート会議等の活動を行っています。ホーム間での男性職員との交流の機会を設け、課題の共有を行うことで、問題の解決を図る一助となればと思います。また、男性活躍に関する画期的アイデアの創出も期待できます。男性職員の少ないホームに関しては、他ホーム男性職員との交流の場を設けることで、ストレスの緩和なども図れています。

主な内容としては、各ホーム男性職員特有の困り感、立ち回り、発生するリスクの管理などといったものを課題に意見交換を行っています。今後の活動として、各ホームの人員を要する作業を洗い出し、男性職員の派遣の検討を議論し、必要であれば派遣を行うといった仕組みが生まれつつあります。

具体的作業として、各ホーム敷地の剪定、男性職員の交流、技術向上を兼ねる各種教室への参加などが挙げられています。

6月に開催された総会では、広報企画(SNS推進係)と共同で活動を行っており、総会講演会の受付や映像記録、食事会の司会などの役割を担いました。発足され間もない為、チームとしての連携などに課題が見られ、今後の交流を通して、より効率的に機能するチームとしてのある方を協議していく必要があります。

今後更なる議論の発展の為、より多くの男性職員が参加しやすい環境を整え、男性職員の更なる活躍の機会を目指しています。

■ 行事イベント係

今年度は、10月にスポーツイベント・2月に文化祭イベントを開催予定しています。

昨年、LUCKが企画したバドミントン大会がグループ全体の開催となり、80名を超えた参加で盛り上がりを見せ大好評でした。それを受け、今後もグループの入居者・退居者・職員間の交流を深めていけたらと、令和7年4月より行事イベント係が発足しました。各ホームから職員が代表として参加し、企画立案や準備を進めています。

今年度は、10月にスポーツイベント・2月に文化祭イベントを開催予定しています。

スポーツイベントでは、10月25日に熊本にてバドミントン大会を行います。

来年2月には、文化祭・調理体験を福岡にて開催予定しています。得意とするものの発表の場はどうか・ダンス発表や模擬店は…など何度も話し合いを重ね調理体験となりました。

現在、タイムスケジュールや会場の広さ・調理設備など細かな点も含め、調理可能なメニュー候補を挙げての話し合い真っ只中です。

まだまだ決めていくことが沢山ありますが、アンケートを実施したりアイデアを出し合いながら、食を通じて楽しい時間を共有できるよう企画してまいります。

入居者へ聞き取りをし、ボウリング・卓球・釣りなど様々な案が出たなか、もっとも希望が多かったバドミントンに決定しました。今大会では、「心身の健康と交流やチームワークを楽しむ場」を目的に行います。現在、アンケート結果をもとに組み合わせや進行を調整しています。全員が楽しめるよう、また円滑に進行できるよう準備を進めています。

今後も、行事イベント係では入居者・退居者・職員が共に「やってみたいこと」を形にいくプロセスを大切にしながら各ホームが協力して話し合いを重ね、みなさまにとって楽しく思い出に残る行事をつくっていきたいと考えています。まずは10月のバドミントン大会をお楽しみに!!



SNS・広報係 活動報告

SNS・広報係では、公式LINEの運営、クラウドファンディングの掲載などに取り組んでいます。

SNS・広報係では、主にSNSを活用した情報発信、入居者や退居者、関係者などを対象とした公式LINEの運営、クラウドファンディングの掲載などに取り組んでいます。

『自立援助ホーム』は、支援が必要な若者たちの居場所であるに関わらず、その存在や活動内容があまり知られていないのが現状です。

そこで、もっと自立援助ホームの存在や取り組みを“知ってもらいたい”という想いでSNSを活用したアイグループの紹介を行っています。

現在は情報発信ツールとして、

①Instagram ②X ③YouTube を運用しています。

InstagramとXでは、各ホームの紹介、取り組み、ホームイベントなどを取り上げて発信しています。YouTube活動の今後の発信する内容についてはミーティングでの話し合いを通して、計画を練り、模索しているところです。動画の発信で、実際にホームで暮らすこどもたちの声や、自立援助ホームの現状が、より鮮明に社会に伝えられたらと思っています。

現在、最初の投稿内容として、6月に行われた講演会で講師の方2名に気になっている事、講演を聴いて気になったことを、また、私たちの活動をもっと身近に感じていただけるよう、公式LINEも開設しています。広報係の各担当がそれぞれの地区ごとに分かれ、LINE登録者へのLINEの送信、返信を行っています。具体的な内容としては、担当者からイベント情報の発信や入居者、退居者の日常会話の返信、困った時の相談窓口としても利用していただきたいと考えています。

担当地区は、福岡、北九州、熊本、長崎の4地区に分かれています。それぞれの地区で暮らす入居者、または暮らしていた退居者を主な対象としていますが、その他の関係者や一般人向けにも公式LINEの登録を募っています。

“自立援助ホームって何だろう”という社会の疑問から広報活動を通して、自立援助ホームの取り組みが多くの方に知られることで、自立援助ホームの役割や、私たちが日々向き合っている現場の声が、少しでも社会に届くことを目指し、今後の広報活動に取り組んでまいります。



公式LINE

SNSで、アイグループの事をもっと知ってほしい。

アイグループではSNS・広報企画係を中心として、SNSに力を入れ始めました。

公式LINE・Instagram・X(旧Twitter)・YouTubeを始めました。アイグループの紹介やイベント・各ホームでの日々の出来事などを発信しています。

アイグループの事をもっと多くの方に知っていただきたいので、ぜひQRコードから各SNSを覗いてみてください。

よろしくお願いいたします！

公式 LINE

【福岡】



【北九州】



公式 Instagram

【IGROUP_NPO】



【熊本】



【長崎】



本社移転

本社移転のお知らせ

7月1日より以下の住所へ移転いたしました。

春日市春日原東町二丁目1番4号

これまでえんの住所が本社住所としていましたが、入居者の安心を確保する観点から本社を別に定めることを総会に諮り承認をえることができました。

移転先の本社住所には一般社団法人福岡県児童自立生活援助事業協議会の活動拠点も設置予定の為、地域支援の拠点としても活動を行う予定です。

当法人が取り組む地域支援にはassist roomやBOOK CAFE PERCHの取り組みがあります。

今後はフードバンクとの連携による物資の提供や支援を希望する方へ物資を届ける活動も行いたいと考えています。寄付をいただけるような取り組みも行いながら支援が必要な方へ届けることも行っていきたいと考えています。

これからも活動をご支援いただけるように努めてまいります。



inn移転について

inn移転のお知らせ

昨年より、innの移転に向けた準備を、職員一同で少しずつ進めてまいりました。

現在のinnは、海のそばに位置し、少し歩くと穏やかな海が広がる、自然豊かな環境にあります。入居者は、海辺の散歩を通してリフレッシュしたり、気持ちを整えたりと、自然の力に癒されることも多く、心身の安定につながっていると感じる場面もありました。

一方で就労、就学の通勤、通学には時間や交通費もかかりバスも1便乗り遅れると遅刻や休んでしまうことにもつながり、度重なると行きづらさから辞めてしまったり、通勤の大変さから外泊が増える入居者もいました。

就労先の選択肢が限られているという点も課題のひとつです。希望する職種に就くことが難しく、就労そのものに前向きになれない入居者も少なくありませんでした。入居者からも「働きたい場所がない」「通えない」といった、生活のしづらさに関する声もありました。

こうした現状をふまえ、innはより利便性の高い市街地エリアへと移転することになりました。現在は新しい施設のリフォーム工事が進行中であり、今後の支援の可能性を広げる場として、準備を整えています。

移転先は、電車や複数の交通手段が利用可能な場所にあり、これまでの課題であったアクセスの問題が大きく改善される見込みです。通勤・通学にかかる時間が短縮されることで、入居者の心理的・身体的負担が軽減され、より良い支援が行えると考えています。また、関係機関との連携がしやすい立地であるため、相談支援や医療との連携、多機関での支援体制づくりも進めやすくなります。

施設の移転にあたっては、関係機関の皆さまに新しいinnを直接見ていただけるよう、内覧会の開催を予定しています。innの支援内容や理念、若者たちの暮らしを知っていただくことで、地域とのつながりがさらに深まり、多様な支援の広がりや、社会的な孤立の予防にもつながることを願っています。また、地域支援の取り組みに広げていきたいと思っています。

innの退居者の方や若者が気軽に立ち寄れる場としての活用も考えています。退居者が話を聞いてほしいと泣きながら連絡してくる事があります。話をしていくうちに、落ち着き笑顔になることが多く、みんな話せる人がいない、家族や友達、相談員には話せないと頼ってきてくれます。自分からは頼れない、話せない退居者もいます。そのため、こちらからアプローチをかけイベントのお誘いやお誕生日、定期的に連絡を取って、切れることなく「ずっとつながっているよ」と伝えていきたいと思っています。

人間関係につまずいたり、幼いころのフラッシュバック、仕事や家族の困りごと、生活の不安、心身の不調などの悩みを一人で抱え込まずにいつでも相談でき、話すことで少しでも不安が減るよう支援して、必要な情報提供やサポートができる居場所にしたいと思います。

まずは退居者の方を招いての、茶話会も計画しています。声掛けをして、遠方の方やお仕事で参加できない方はZoomでつなげるなど、一人でも多くの退居者の方が参加でき、同窓会のような楽しい場にしたいと考えています。支援を切らさないために職員を知ってもらうことも大切なので、職員も全員参加し見守る大人の輪を広げチーム全員で若者たちの未来を支えていきます。

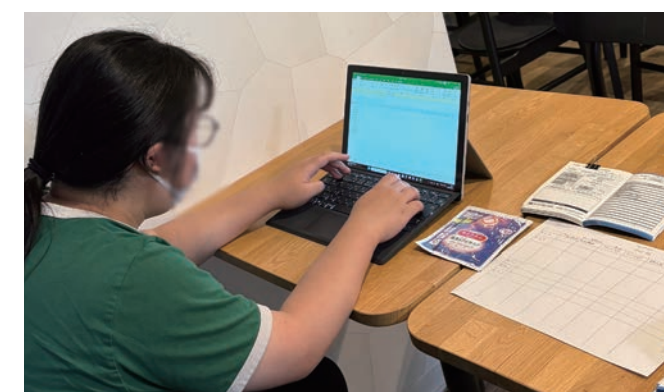
就労体験について—BOOK CAFE PERCHの取り組み—

BOOK CAFE PERCHでの就労体験の様子をお伝えします。

パーチでは、アイグループの自立援助ホーム入居者を対象に、働く練習の場を提供しています。自立援助ホームという場所は、そこで暮らしながら、経済的にも精神的にも自立した生活ができるように準備をしていくところです。そのために通学したり、アルバイト先を自分で探したり、スタッフとも相談をしながら自立に向けて進んでいくのですが、その就労先の一つとしてパーチがあります。

ブックカフェでの接客以外にも、仕込み作業（調理）や、事務作業、清掃など、自分にあった仕事を選んで働く練習をすることができます。初めての就労先にパーチを選ぶ子がほとんどなので、みんな最初は緊張してなかなか声が出なかったり、疲れやすかったり、うまくいかないこともあります。それぞれのペースで着実に成長していく様子がわかります。

今日はその中から1名に感じたことを書いてもらいましたので、紹介します。



就労体験を通して感じたこと

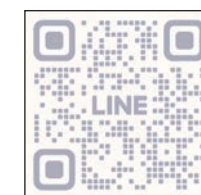
R.Hさん

私は就労体験を2024年の7月にはじめました。普段は週1～3回の一日1～3時間で就労に取り組んでいます。

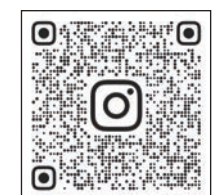
最初はとても不安で緊張していました。実際に就労体験をしてみて、掃除や事務作業など自分に向いている仕事ができ楽しく自分のペースで作業をすることができています。また、就労のお給料を初めて受け取ったときはすごくうれしかったです。最初に就労を始めたときは終わった後に疲れが次の日に出ていたのですが、今は就労に慣れて終わった後も元気に過ごすことができています。就労を始めて遊びや学校の両立など自分のスケジュール管理ができるようになりました。最初は仕事を覚えることが大変でずっと質問をしていたけど今は、仕事を覚えることができたのであまり質問をすることなく作業をすることができています。

これからは将来に向けての貯金や自分の健康管理を頑張りたいです。

▷彼女は、とても成長していて、いまではエクセル入力のできることも増えてきました。また、仕事への姿勢がすばらしくて「残りの2分何かすることはありますか?」というように真面目に取り組んでいます。ここでの体験を、将来の自分に生かしてほしいです。



公式 LINE



公式 Instagram

子どもたちの自立を
家族のように支援する、
プロフェッショナルたち。



■ ラブイベント報告

水族館シードーナツへ行きました。

ラブでは毎月、季節や入居者のニーズに合わせたイベントを企画しています。4月に入居者4名と天草のわくわく道中水族館シードーナツへ行きました。年度の始まりということもあって、レクリエーションを兼ねたイベントだったので少し遠出ではありましたが、入居したての児童や普段自室で過ごす事の多い入居者と車内で話した時間がとても貴重な思い出となりました。水族館の中でも普段なかなか見る事の出来ないイルカや海の生物に興味津々で、水槽に張り付いて見ていた姿に職員も微笑ましくなりました。帰るころには疲れた様子もありましたが、撮った写真を見せ合い、居残りの職員にも熱く語る様子に計画して良かったと思える一日になりました。



5月のイベントではゲーム大会を企画し、みんなで人生ゲームをし、景品を求めて、順位を競い合いました。ジュースやお菓子を片手に、入居者も職員も和気あいあいと楽しむことができました。日頃、学校やアルバイトで苦しいこと、辛いことがあるかと思います。少しでも楽しいと思ってもらえるようなイベントを行うことで、入居者がリフレッシュでき、また明日からも頑張ろうと前向きな気持ちに変わっていければと思っています。入居者も、いつもイベントを楽しむにしてくれています。頑張るところは頑張る。力を抜くところは抜き、楽しむときは精一杯楽しめるよう、これからも入居者の活力の一つになれるような楽しいイベントを企画していきたいです。

■ LUCKイベント報告

木下大サーカスへ行ってきました。

5月に子ども達と一緒に木下大サーカスへ行ってきました。子ども達もそうですが、初めてのサーカスにすごく感動していました。北九州市には16年ぶりの公演でもあり夢と奇跡の感動のステージでした。どのショーも素晴らしかったのですが、中でも一番心に残るショーは空中ブランコのショーでした。このショーは最後に行われたのですが、チームで力を合わせて繋げていく姿を見させて頂きとても感動しました。他にもバイクショー、象のショー、ポニーのショーなど様々なショーがありどのショーもとても素晴らしく感動しました。また、イリュージョンもあり迫力満点ですごく圧倒される場面も多かったです。子ども達も来た時よりは笑顔が増え帰るころにはテンションも上がり写真撮影もしてもらい笑顔いっ



ぱいで心に残る素晴らしい一日だったと思います。サーカスが終わり「お腹が空いたあ」と子ども達の声が聞こえてきたので、食事へ向かう事にしました。お店に付くと子ども達も沢山注文し、いつもホームではあまり食べない子もスカートのチャックが閉まらないくらい沢山食べていました。いつも見る事が出来ない姿をみて、職員も嬉しい気持ちでいっぱいになりました。今後も、ホームでの行事イベントを大切に子ども達の笑顔がみられるような支援に繋げていければと改めて思いました。

新たな夏の始まり

季節も春から夏が訪れようとしておりますが、LUCKでは子ども達が行いたい事、ここへも行ってみたいなど興味がある事があれば職員と一緒に考えみんなで取り組めるようにしています。今まで経験したことがない事、何かにチャレンジしてみたいけど出来なかった事など、色々な体験や経験を通し子ども達の成長につながると考え、また、ここで失敗して学んでくれればとも思っています。社会に出た後の事を考えると、今ここにいる時間を大切に過ごし日々の成長へと繋がればとも考えております。

6月は、福岡にあるサモエドカフェへ行ってみたいとの子どもからのリクエストがありサモエドカフェへ行ってきました。楽しそうに過ごし、子どもの笑顔を沢山みる事もでき気持ちもリフレッシュし、良い経験になったと思います。

また、今回OGの子どもと赤ちゃんと一緒にアイグループの総会へ参加させて頂きました。

退居した後の繋がりについても改めて考える事が出来ました。関係性があるから繋がれる、退居した今だからこそ分かる事もあるとその子が教えてくれる場面もみられ、成長している姿に嬉しく思う



一日になりました。

また、ホームには新たな入居者が増えホームの景色も一気に賑やかになりました。これからもLUCKでは子ども達の笑顔を守り、子ども達と共に育ち暖かい居場所になればと考えています。

向き合う時間を大切に

毎日暑い日々が続いていますが、現在小倉北では6名の児童が生活しています。

「山に登りたい!!」とずっと言い続けていた児童がおり、GWに職員と2人で平尾台へ外出しました。普段は周りにとっても気をつけてゆっくり話せる機会が少ない児童なのですが、1対1での外出をすることで、心に秘めたいろんな思いを聞くことができました。半日平尾台で過ごし、気持ちもリフレッシュできたと話していました。翌日2人揃って真っ赤に日焼けしたことは、良い思い出です。外食イベントでは、なかなか予定が合わず全員で行く事が出来なかった為、数人ずつで外食に出掛ける事になりました。小倉北の児童は食べる事が好きな子が多い為、みんな笑顔で美味しく食べる姿を見ていました。

また、小倉北では自立に向けて、自炊をする機会を作っています。自分で軽食を作ったり、お菓子を作って他児にふるまったりすることも多いです。職員と一緒に食材を見ながら、今日はあれを作ってみよう等考える事もいい機会になっています。



児童1人1人と向き合う時間を大切にしていける事で、素直な気持ちを話してくれたりすることも増えてきました。信頼関係を築いていくことや、安心安全のホームでありつづけるためにも、この時間を大切にしていきたいと思っています。

アクティブのひとコマ

本格的な夏の訪れを感じる季節となりました。おかげさまで、数多くの貴重な体験をさせて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

先月、Permitでは公園にてお花見を開催しました。春の名残を楽しみながら、心地よい風と満開の花の中で、笑顔あふれるひとときを過ごすことができました。

こうした行事を通じて、日々の生活に彩りを添え、心のリフレッシュにもつながっていけばと思っています。

他には、グリーンパークにて乗馬体験や色々な動物・自然とのふれあい行事を行いました。

普段なかなか触れることのない馬とのふれあいや、自然の中での穏やかな時間を通じて、参加した皆が笑顔になった一日でした。動物のあたたかさに触れ、心がふっと軽くなるような、そんな時間になったのではないかと思います。

これからも、一人ひとりが少しずつ「自立」に向かって進んでいけるよう、スタッフ一同、丁寧に関わってまいります。

今後もご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



新緑薫る季節の一步

緑豊かな過ごしやすい季節となった4月、いちご狩りイベントに参加した児童2名。

あまり食べられないと言いながら、赤々と色づくイチゴを見ると、次から次へと食べ過ぎたようで『もうこれ以上食べられん』『お腹いっぱい、お昼ご飯食べられるかわからん』と楽しそうに話していました。4月には新たな入居児童1名を迎え、入居児童5名となりました。

5月には、思いっきり体を動かしたいと児童からの要望があり、時津町B&G海洋センターの体育館を借り、児童2名、職員5名の計7名でスポーツ(バドミントン、ドッジボール、バレー、バスケ)をしました。バドミントンでは、シングルス、ダブルスとトーナメント形式での試合を行い、思うようにプレーできず悔しがる場面も見られましたが、汗をかき、体をいっぱい動かし、児童、職員共に楽しいひとときを過ごすことができました。



6月には、長崎県美術館に九州初上陸の金曜ロードショーとジブリ展を観に児童2名が参加しました。数多くあるフォトスポットで撮影をしながら、風の谷のナウシカのオームなどのリアリティに溢れた圧巻のクオリティ、スタジオジブリの世界に入り込んだかのような、なりきりスタジオなど、ジブリ作品の壮大な世界観を再現した立体的な展示物を心から楽しんでいました。

今後も入居児童の要望に対して可能な限り耳を傾け、児童の可能性を伸ばしていけるような支援をしていきたいと考えています。

夢に向かって

現 ラブでは、3月に新しく2名の児童を迎え、6名の児童が生活しています。

就労を目指し自衛隊の勉強を頑張る児童、退居に向けて悩みながら自分と向き合いアルバイトに励む児童など、それぞれが目標に向かって生活しています。

新しく入居した高校1年生の2名は、4月の水族館のイベントやゲーム大会に参加するなど、他児童とのコミュニケーションもとれ、ラブでの生活にも慣れてきて楽しそうな姿を見せてくれます。

今年に入り資格取得の為に専門学校に通い始めた児童は、夢に向かって学校とバイトで忙しい日々を過ごしています。

入学したての頃は、学校に馴染めず教室に入る事も出来ず、毎日不安の中、学校を休むこともありました。その為、本人の希望もあり、毎日夕方には本人の部屋で話をし、背中を押す事で本人の学校に対する気持ちも前向きになり始め、最近では朝から夕方まで授業を受け、毎日学校に通えるようになりました。

本人と職員間で入居当初から始めた交換ノートでは、最初の頃は

マイナスな文章が多かったですが、1冊目が終わる頃には「楽しい、幸せ」という文字が増えてきました。

初めてその文字を見た時、職員一同、幸せな気持ちになりました。たまに落ち込むときもあるけれど、寄り添い、受け止めて、これからも支えていきたいと思います。



夢や目標に向かって

万 緑の候。現在、庵ではアシストルームも含めて6人の入居者が生活しています。

4月に16歳を迎える入居者、他入居者、職員を交えて誕生会を行いました。入居者からは「やっと16歳になったからカラオケも長い時間できる」と喜んでおり、職員が「今年の抱負、何か挑戦したいことありますか」と尋ねると入居者は「検定や資格試験を受けて資格の取得を目指し就職に生かして頑張りたい」と意気込んでおり、「料理も美味しくて安いですね」と満足している様子を見ることが出来ました。

5月に18歳を迎える入居者は自分の夢である美容師に向かって学業と同時にアルバイトも始めています。年齢も18歳になり出来る事が増えたことで毎日充実した日々を過ごしています。今は定期的に難しい季節ですが体調の乱れも無く、夢の実現のために目標に向かって強い意思をもち日々精進している姿が見受けられ嬉しく思っているところです。夢や目標に向かって生きることは容易なことではありません、夢や目標の途中で様々な試練が待っているこ

とと思います。それを乗り越えながら少しずつ成長し夢や目標に向かって生きていく中で、困った時には相談や色々な支援を利用することも必要だと思います。

入居者それぞれの夢や目標は異なり、夢や目標に対する思いも違うと思います。少しでも入居者の力になれるように入居者に寄り添いながら相談しやすい環境や体制を整え入居者の不安や困り事を少しでも解消できるように取り組んでいきます。



新たな出発

テ ンポラリーくまもとでは現在5人の児童、新しい職員も増えにぎやかな毎日をすごしています。

先日18歳の誕生日を迎えたMさんは妊娠をし出産という大きな決断をしました。これまでのMさんは、自分のことで精一杯で時には職員ともぶつかり合う日もありました。

しかし、今回妊娠を機にMさんの考え方や行動にも少しずつ変化があり、「わからないことだらけでアドバイスほしい!!」と出産子育てについての不安。いろんな葛藤やこれからのことをMさんと2人で沢山話をしました。誕生日には職員と食事をしながら、これ食べたらお腹の子に負担かかるかな?睡眠とれてないけどお腹に負担かかってないかな?などお腹の子のことを常に考え話をする児童に成長感じ嬉しい気持ちになりました。

Mさんの誕生日ケーキはアイスをいっぱい食べたいとアイスクリームを買に行き、1つは〇〇ちゃんもあげるんだと仲のいい児童の分も選ぶ姿を見てMさんの優しさ思いやりの気持ちにも変化がありとても感慨深かったです。



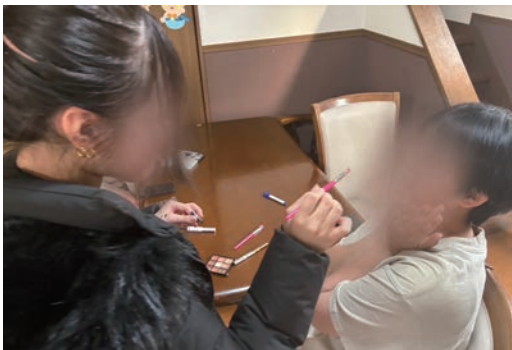
今回Mさんは出産を決め退居し、新しい場所で生活することとなりましたが、Mさんと過ごした中で児童のために職員としてどうあるべきかどう支援していくべきか改めて自立支援について考えるいい機会でもありました。これからも職員として児童1人1人向き合いながら児童と一緒に考え、学び一緒に成長していけたらと思います。Mさんに幸あれ!!

児童の団らん

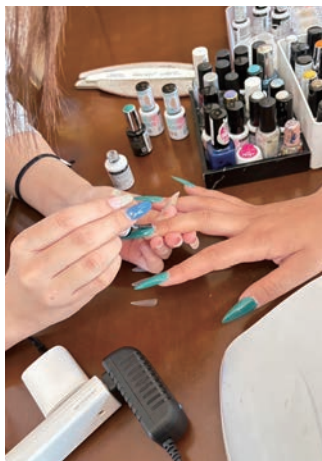
テ ンポラリーくまもと2号室では、児童同士でネイルや化粧を楽しむ時間が増えてきています。

休みの日や学校から帰ってきた時など時間のある時にリビングへ来てネイルを塗りあったり、自分に合いそうなメイクをしてもらいながら、にぎやかな声と笑顔が広がっています。「この色意外と似合うくない?」「逆にこの色はおかしい!」と言った声飛び交いとてもにぎやかな空間になっています。あまり、化粧をしない子が「〇〇化粧してー!」と照れながらも、周りに教えてもらっている様子はとても微笑ましかったです。

ネイルやメイクをしている時のこどもたちの顔には、笑顔や照れくさそうな表情が見られました。「それ似合ってる!」「いい感じじゃない?」と声を掛け合うそのやり取りの中に、少しずつ自分や他の入居者を認める力や人とのつながりが増えているのを感じ、年齢や背景の違う子どもたちが、そうした時間を通して自然と心を通わせておだやかな関係を気づいていく様子に、心があたたかくなり、こうした何気ないひとときが、子どもたちにとって「安心して自分を出せ



る場」となっていることを改めて感じさせられました。誰かと一緒に笑ったり、褒め合ったりするその時間が、少しずつ子どもたちの表情に変化をもたらしているように思いました。これからも、安心して過ごせる場を見つけて、日常の中の小さな楽しみを大切に積み重ねていけたらいいなと思います。



笑顔で過ごせる日が1日でも1秒でも多くありますように。

梅 雨が明けたとたん猛暑日が続き、いよいよ夏本番を迎えようとしています。えんでは現在6名の子どもたちが生活しています。

5月にはホームのイベントとしてBBQを開催しました。沢山のお肉や魚介、野菜などを焼き、外で食べる開放感の中みんなワイワイ賑やかに楽しみました。BBQ中には「何か手伝うことある?」、「焼くの変わるよ」、「食べてる?」などの優しい気遣いをもらい、心が温かくなりました。

6月の畑作業では、今年も沢山のじゃがいもと玉ねぎを収穫することができました。普段あまり料理をしない子ですが大きなじゃがいもを使い、慣れない料理を頑張りました。「疲れた〜、もうやりたくない〜」と弱音を吐きながらも殆ど最後まで一人で調理し、他児童に振る舞う姿にはとても成長を感じました。

また、3種類のポテトチップスとキッシュにフライドポテト、オニオンブロッサムで意見交換会を兼ねたパーティーも行いました。そこで、子どもの日常での困りごとや共同生活をしていく上での注意



点を改めて確認しました。そして、今後経験してみたい事や行ってみたい場所、イベントについて話し盛り上がりしました。こうした子どもたちの声を聴ける機会は職員にとっても本当に大切な有意義な時間になることを実感しました。

次のイベントはホームの庭に小さな畑を作ることです。

今後も、職員と児童と一緒に楽しめるようなイベントを増やし、笑顔の思い出が溢れる温かいホームを目指したいと思います。



暑さに負けずに

初 夏の陽気が段々と深まり、汗ばむ日が増えてきました。テンポラリーでは現在6名の児童が生活し、その中で大阪で一人生活している児童がいますが、バイトや実習を頑張っていると聞くと嬉しく、自分の夢に向かい頑張っている背中をいつまでも応援していきたいと思います。

先月アイグループのじゃがいも、玉ねぎの収穫に児童と参加させていただきました。じゃがいも植えに参加した児童は「え、こんなになるの!?凄いい!」と目を輝かせていました。収穫ができたじゃがいもや玉ねぎを「こんな料理が食べたい」「こうして!」との要望もあり、食事に出すと喜んでくれていました。テンポラリーにはとても料理づくりが上手な職員さんがおり、見た目も綺麗で目からも楽しめる食事にいつも驚かされます。児童も一緒に食事作りを行い、教わったおにぎりの握り方を職員に教えてくれたり、パン作りを行うなどキッチンが和気あいあいとしています。

また、先日は児童と一緒にバッチングセンターへ行ってきました。「ずっと行きたい」と言っており、行ける日にちが決まるととても喜ん

でいました。中々打てない職員の隣で生き生きと笑いながら、何度もホームランを打つ姿は圧巻でした。梅雨という季節がらなのか、中々気分が上がらないこともありますが、児童の笑顔に職員も元気をもらいました。

これから暑いが続きますが、暑さに負けず児童と様々なことに挑戦していきたいと思っています。



子どもたちからの メッセージ 2025 夏

いつもアイグループを応援していただき、ありがとうございます。支援者のみなさまに子どもたちからのメッセージ動画を送ります。

下記にある動画視聴方法から、動画をぜひご覧ください。

Summer 2025

メッセージ動画



通信誌 vol.16



これからも、子どもたちの応援を
よろしくお願い致します。

スマホでこどもたちの動画をご覧ください。



専用アプリ(無料)

COCOAR

で検索もしくは、

下記のQRコードよりダウンロードしてお楽しみください。

iPhone版



Android版



■動画視聴方法

1 COCOARを起動、スキャンをタップ。



2 にCOCOARをかざします。



3 動画がスマホで見られます。



ぜひお試しください!